コミュニティ・ユース・バンクmomo
創立10周年記念成果報告書
『momoのあゆみ2005～2015』

発行人　木村真樹
（コミュニティ・ユース・バンクmomo　代表理事）
取材・編集協力　石川孔明
デザイン　ORGANデザイン室
スペシャルサンクス　佐尾三保子様

2015年12月23日　第1刷

発行者
コミュニティ・ユース・バンクmomo
〒461-0002　愛知県名古屋市東区代官町39-18
日本陶磁器センタービル5F　5-D号室
NPO法人中部リサイクル運動市民の会内
E-mail：info@momobank.net
Tel：052-933-3625　Fax：052-982-9089

本書の内容の一部あるいは全部を無断で複写製本（コピー）することは、著作権法上認められている場合を除き、禁じられています。本書のデータやフレーズを引用される場合は、必ず出典を明記いただき、コミュニティ・ユース・バンクmomoにお知らせください。

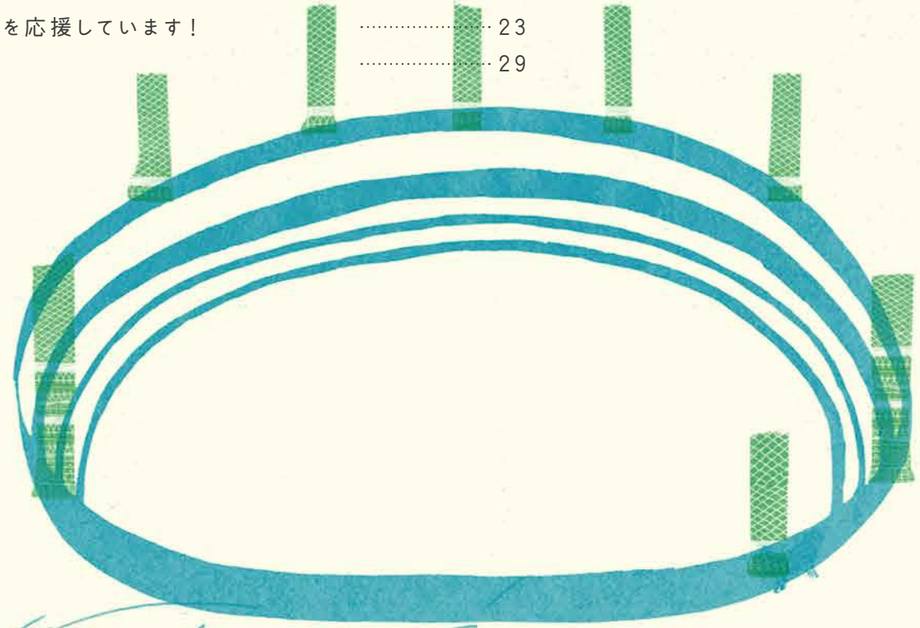
コミュニティ・ユース・バンク
momo

創立10周年記念成果報告書

『momoのあゆみ 2005～2015』

目次

コミュニティ・ユース・バンクmomoとは？ …… 1
10年のあゆみ …… 2
数字で見る融資先 …… 4
融資先ストーリー（1）NPO法人こうじびら山の家 …… 6
融資先ストーリー（2）NPO法人ふれ愛名古屋 …… 8
数字で見るmomoレンジャー …… 10
momoレンジャー＆理事インタビュー …… 12
数字で見る出資者 …… 14
地域金融機関との連携 …… 16
次の5年、10年に向けて …… 18
財務の変化/役員・顧問・スタッフ（2015年度） …… 22
私たちはmomoを応援しています！ …… 23
応援メッセージ …… 29



コミュニティ・ユース・バンク momo とは？

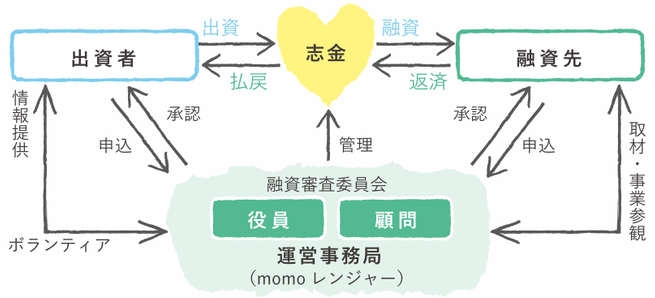
今から10年前の2005年10月23日、市民のための新しいお金の流れをつくろうと立ち上がった20～30代の若者たちは、東海地方初のNPOバンク「コミュニティ・ユース・バンクmomo」を設立しました。

momoという名前は、ミヒャエル＝エンデの物語「モモ」にちなみ、この地域で暮らす若者たちの「子や孫の代まで、このまちでずっと暮らしていけるように」との想いが込められています。そんな未来をつくるために、みなさんからの出資金をもとに、NPOやソーシャルビジネスなど、地域課題の解決に取り組む個人や団体へ、低利子・無担保での融資をしています。

これまでの10年間、出資者のみなさん、融資先の人たち、ボランティアで活動を支えるmomoレンジャーなど、多くの人たちとともに地域をつくる活動に取り組んできました。この報告書ではmomoの10年を振り返りながら、次の10年でどんな豊かな未来をつくっていくのか、一緒に考えてみたいと思います。

2005年の設立総会での集合写真

momoのしくみ



10年のあゆみ

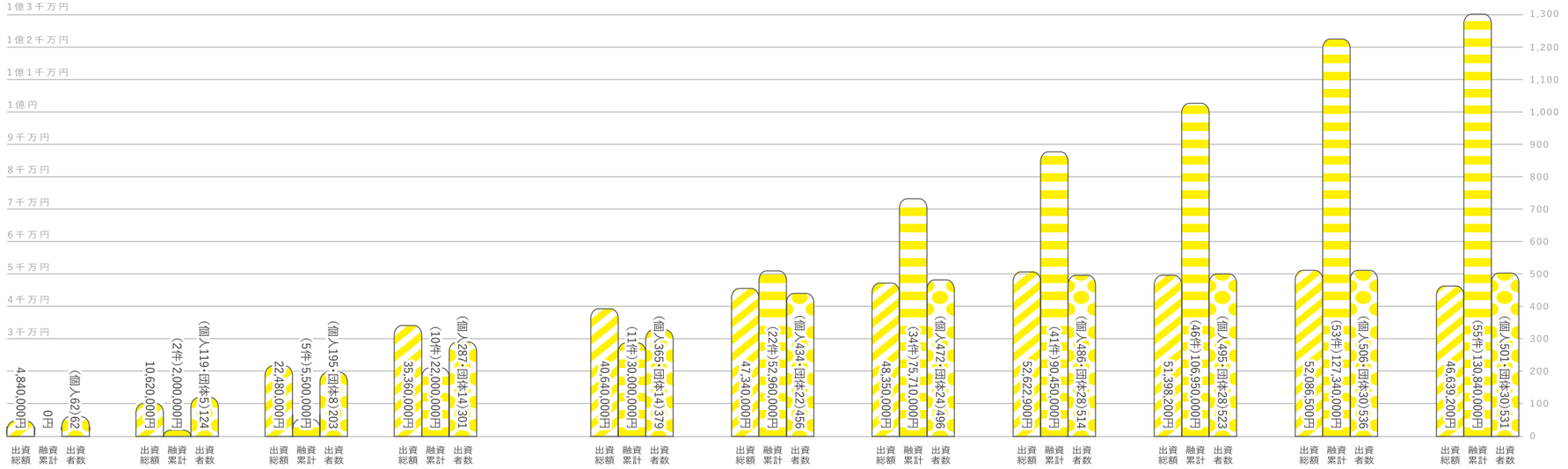
2005年、賛同人230名を集めてmomoは誕生しました。「新しいお金の流れをつくろう」「これからの地域の担い手を支援しよう」と立ち上がったものの、当初は実績のない若者や収益性が高いとはいえないNPOへの融資が成立するのかと心配する声もありました。そんななか、出資者62名から託された“志金”を元手に融資をスタートし、10年間で出資者531名へと規模を拡大しながら、これまで1件の貸し倒れもなく、55件の融資を実現してきました。

momoの融資は、将来にわたって安心して暮らしていける地域をつくるためにあります。そのためには、ただ融資を増やしていくだけでなく、地域にどのような課題があり、どんな取り組みが必要なのか、地域の人たちと共有していく必要があります。そのためmomoでは、メールマガジン『momoレポート』やニューズレター『momo通信』、『お金の地産池消白書』を発行し、「白書を読む会」を開催するなどして、社会課題を自分ごととして考える機会をつくってきました。

また、次世代の担い手が育つ基盤をつくるため、「東海若手起業塾」に発足当初から参画し、2015年からは実行委員会の事務局を担当しています。さらには2012年度に取り組んだ東海労働金庫、中日信用金庫との「しんきん＆ろうきんプロボノプロジェクト」を皮切りに、瀬戸信用金庫や東濃信用金庫とのプロボノプロジェクト、そして日本政策金融公庫との協調融資など、地域金融機関がNPO・ソーシャルビジネス支援に関わる仕組みづくりを進めています。

こうした活動が認められ、10周年を迎えた今年、優れたソーシャルビジネスを表彰する「日経ソーシャルイニシアチブ大賞」の国内部門賞を受賞することができました。これからも、持続可能で豊かな地域を目指して、momoはさまざまな事業に取り組んでいきます。

出資＆融資の推移／年表



2005年度末
- NPOバンクが金融商品取引法の適用除外に
- 出資金募集を開始
- 設立（賛同人230人）

2006年度末
- 初のつなぎ融資を実施（NPO法人起業支援ネット）
- 貸金業登録を申請・認可
- 融資のしくみづくり

2007年度末
- 「コミュニティ・ファンド等を通じた環境保全活動支援促進事業」を実施
- 初の一般融資を実施（NPO法人こうじびら山の家）
- メールマガジン『momoレポート』を創刊

2008年度末
- 「融資無料相談」を開始
- 「ソーシャルファイナンス研究会」を初開催
- 「東海若手起業塾」に参画

2009年度末
- Webサイトをリニューアル
- 『融資のあゆみ』を初発行
- 「バーチャル融資審査委員会」を初開催

2010年度末
- 融資先「yaotomi-」「G-net」の寄付募集を実施（総額25万円）
- momoレンジャー出身の融資先誕生（合同会社yaotomi-）
- 人件費を初めて予算化（週2日）

2011年度末
- 『お金の地産池消白書2011@愛知県版』を発行
- 「NPOバンクによる被災地での仕事づくり促進事業」を実施
- 専従有給スタッフを初雇用

2012年度末
- マンスリーサポーター制度「momoたね基金」を開始
- 「しんきん&ろうきんプロボノプロジェクト」を実施
- あいちコミュニティ財団の設立を支援

2013年度末
- 日本政策金融公庫との協調融資を実施
- 「せとしんプロボノプロジェクト」「とうしんプロボノプロジェクト」を実施
- 名古屋市東区へ事務所を移転

2014年度末
- 第3回「日経ソーシャルイニシアチブ大賞」【国内部門賞】を受賞
- 『お金の地産池消白書2014』を発行
- 「ソーシャル・ビジネスサポートあいち」の発足

2015年度（2015年11月末現在）
- 「NPOの社会的価値『見える化』プログラム」を実施
- 東海ろうきん「NPO育成支援助成」の企画運営を担当
- 「東海若手起業塾」の実行委員会事務局を担当

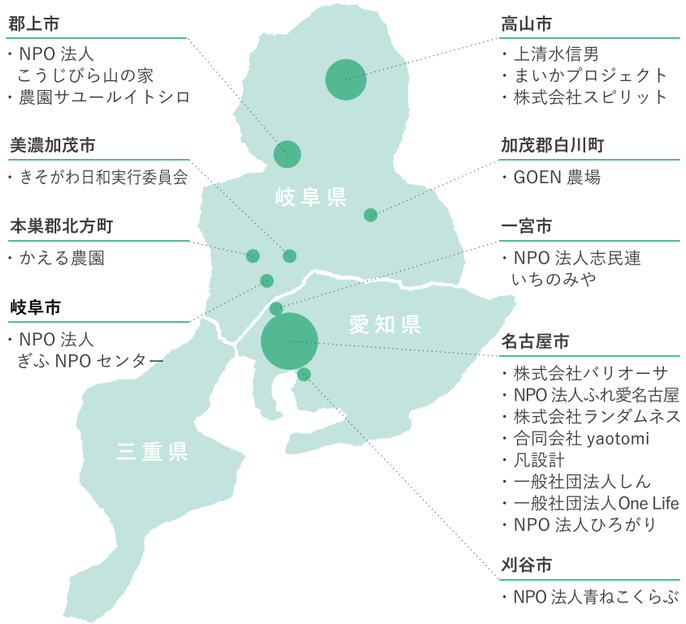
数字で見る融資先

融資先の活動拠点や分野、種類

ここでは、momoの融資先を数字で振り返ってみたいと思います。まず、momoの融資先はどこに拠点を置いているのか見てみましょう。約半分が愛知県（51%）、ついで岐阜県（44%）と、この2県が大半を占め、三重県（4%）、静岡県（2%）と続きます。名古屋市や岐阜市といった都市部が目立ちますが、中山間地への融資も少なくありません。次に、主な活動分野を見ると、特定のテーマへの大きな偏りはなく、さまざまな取り組みへ融資が届いていることがわかります。

なお、momoの融資には2種類あります。ひとつめは、事業が無事に軌道に乗るまで、または拡大のための資金を提供する「一般融資」。ふたつめは、行政や財団などからの事業委託や助成金を得た際に、支払いまでの活動資金を前もって融資する（単年度の）「つなぎ融資」です。momoはこれまでに55件の融資を実行してきましたが、およそ1/3となる19件が一般融資、残りの36件がつなぎ融資でした。

融資先マップ（2015年11月末現在。一般融資先のみ抜粋。）



郡上市
- NPO法人 こうじびら山の家
- 農園サユールイトシロ

美濃加茂市
- きそがわ日和実行委員会

本巣郡北方町
- かえる農園

岐阜市
- NPO法人 ぎふNPOセンター

高山市
- 上清水信男
- まいかプロジェクト
- 株式会社スピリット

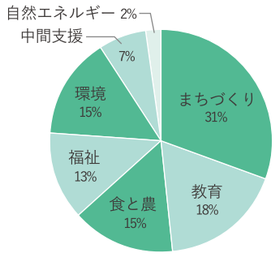
加茂郡白川町
- GOEN農場

一宮市
- NPO法人志民連 いちのみや

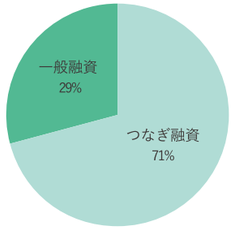
名古屋市
- 株式会社バリオーサ
- NPO法人ふれ愛名古屋
- 株式会社ランダムネス
- 合同会社yaotomi
- 凡設計
- 一般社団法人しん
- 一般社団法人One Life
- NPO法人ひろがり

刈谷市
- NPO法人青ねこくらぶ

融資先の活動分野（n=55）



融資の種類（n=55）



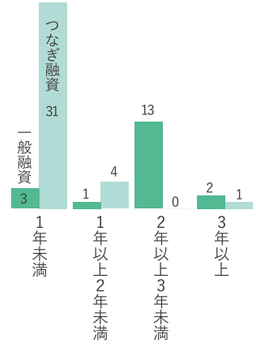
融資を受けるタイミングと融資総額

創業から何年経った時点で融資を受けたかを示すグラフからは、一般融資では創業から3年未満までの「立ち上げ期」と、5年以上10年未満の「拡大期」に資金需要があることがわかります。実績や担保がなく、事業を進める資金を借りられない段階で、momoの融資を活用していることが想像できます。

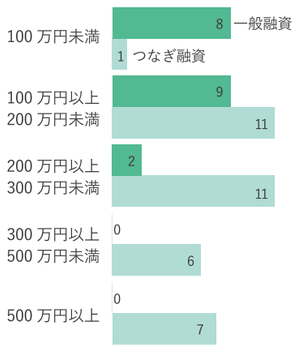
融資金額を見てみると、一般融資の平均は105万円、つなぎ融資では308万円でした。また、一般融資の期間*では、一般融資では2年以上3年未満が大半を占めています。

※行政・財団等の委託・助成期間をつなぐことを目的としているため、つなぎ融資の期間は1年未満がほとんどです。

創業から何年経過した時点で融資を受けたか（n=55）



融資総額（n=55）

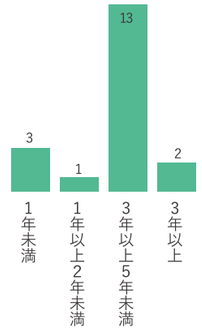


momoの融資から得たもの

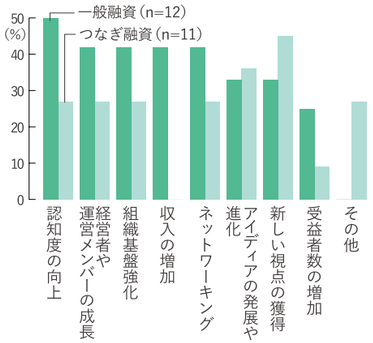
momoの融資は、団体にどんな影響を与えているのでしょうか。「momoの融資から得たもの」を質問したアンケートでは、一般融資先からは、特に「収入の増加」「認知度の向上」が、つなぎ融資先からは、「新しい視点の獲得」「アイディアの発展や進化」が評価されていることがわかります。

今後はmomoが融資先の組織基盤強化にどのように貢献しているかを測る事業評価を丁寧に進めていくことで、よりよい融資と支援の仕組みをつくりあげていきたいと思います。

一般融資の融資期間（n=19）



momoの融資を受けたことによる影響（複数回答）



明宝地区の元キャンプ場を改修したこうじびら山の家。限られた予算で、仲間たちと完成イメージを話し合いながらつくりあげました。

美しい農山村風景が広がる岐阜県郡上市明宝地区。2008年夏、「きーちゃん」こと北村周さんは、のどかな里山の見晴らしのよい中腹に、地域の自然や生活を体験する交流宿泊施設「こうじびら山の家」をオープンしました。

北村周さん

NPO法人こうじびら山の家　代表理事

1983年兵庫県神戸市生まれ。愛知県にある日本福祉大学に在学中、岐阜県・郡上八幡にある自然体験団体「山と川の学校」に出会い、インストラクターとして活動するうちに移住を決意。空き家となっていたキャンプ場をリフォームし、都市部の若者やファミリー向けに田舎生活体験プログラムを提供する「NPO法人こうじびら山の家」を設立。

明宝地区のじいちゃんに憧れて

都会っ子だった北村さんが明宝と出会ったのは、学生時代に始めた自然体験インストラクターのアルバイトでした。足しげく通ううちに、そこで暮らす地元の人たちの生き方に心ひかれていきます。「自分もこんなじいちゃんになりたい！」と、かつてキャンプ場だった空き家に移住することになりました。

住み始めると、集落に若者が数えるほどしかいなかったり、世話をする人が減って山や川が荒れていたりと、それまで気づかなかった課題が見えてきました。「ここで暮らしていきたいと思って移住してきたけれど、じいちゃんになる頃には、この地域はなくなってしまうかもしれない」。そう感じた北村さんは、将来にわたって持続可能な地域をつくるために、自分に何ができるのかを考え始めます。「その時手元にあったのは、自然体験のノウハウと、キャンプ場跡地、そして地域の美しい自然とかっこいいじいちゃん、ばあちゃん。全部活かして、田舎暮らしのおもしろさを伝えていく新しい仕事をつくれないか」。そこから、明宝の自然や田舎暮らしを体験する「こうじびら山の家」のアイディアが生まれました。

momoの融資を受けて、キャンプ場跡地をリノベーション

キャンプ場跡地を改修し、宿泊施設にしようと決めましたが、その際に問題となったのが約300万円の改修費用でした。半分を岐阜県の空き家対策の補助金で、残りを融資でまかなうことにしましたが、なかなか金融機関は相手にしてくれません。「そこでmomoに相談に行ったら、こちらの想いを汲みとってくれて、さらに事業の進め方を一緒に考えてくれました。」と北村さん。無事150万円の融資が決定し、約一年後にこうじびら山の家が完成しました。

さっそくインターネットで広報したり、チラシを配布したりと積極的に営業しましたが、なかなか反応はなく、毎月の返済も重なり大変でした。そんな様子をみて、自分たちも何かできないかと動き出したのがmomoレンジャー。こうじびら山の家の魅力を伝えようと、北村さんと一緒に企画をつくり、都市部から出資者や友人を呼んでの訪問ツアーを開催しました。こうした地道な活動を続けるうちに口コミで評判が広がり、7年経った今ではハイシーズンは予約でいっぱいになってしまうほど、たくさんの人たちが明宝の里山を訪れてくるようになりました。

地域のNPOとともに、もっと郡上を楽しんでもらう仕組みをつくりたい

北村さんの挑戦は、こうじびら山の家にとどまりません。「ハイシーズンの山の家はいっぱいで、これ以上お客さんを受け入れることができません。幸い、僕らに続いて新しいNPOが地域にいくつか生まれました。そういった団体と連携しながら、もっと郡上を楽しんでもらう仕組みをつくっていきたいですね。」と笑顔を見せる北村さん。その視線の先には、そこに住む人たちが安心して暮らせる持続可能な地域の未来が見えているようです。

momoレンジャーと企画した間伐体験での薪割りの様子。自分たちでつくった薪で食べたご飯は格別でした。

名古屋市港区の静かな住宅街の一画にある、ふれ愛名古屋の事業所。

「重い障がいをもった子どもたちが、住み慣れた地域で笑顔で暮らせる社会」を目指し、重症心身障がい児のための介護サービスを提供しているNPO法人ふれ愛名古屋。理事長である鈴木由夫さんがその課題と向き合うことになったきっかけは、2009年に参加したボランティアでした。

鈴木由夫さん

NPO法人ふれ愛名古屋　理事長

1951年、愛知県常滑市生まれ。大学中退後、マーケティング会社に勤務したのち独立起業するも、バブルの影響を受けて事業に失敗し引退。2000年の東海豪雨が転機となり災害ボランティア活動に従事、その後重症心身障がいを抱えた子どもと出会い、2012年に「NPO法人ふれ愛名古屋」を設立。

重症心身障がい児の笑顔と未来を創る

「重症心身障がいの子どもは体が弱く、よく体調を崩してしまいます。私が出会った子は高熱を出して入院することになったのですが、自分では動けず言葉も話せないので、看護師さんだけでは看病できません。お母さんはベッドの横で床に布団を敷いて、24時間つきっきりで看病していました」。

特別に手がかかるという理由で福祉業界からも支援を断られ、病時だけでなく日々の介護でさえ心身ともに疲れ果ててしまう家族を目にした鈴木さんは、「障がいを抱えた子どもや、その家族の生きる権利が脅かされている社会はおかしい。支援の仕組みがないなら、つくればいい」と、NPO法人ふれ愛名古屋を設立。保護者の負担を軽減するため、専門スタッフが子どもを預かりケアを提供するデイサービスを開始しました。

ビジネスの経験を活かして利用者満足を追求

ビジネスパーソンとしてのキャリアを歩み、起業家としての実績もあった鈴木さんは、そのノウハウをNPOの経営にも導入します。書類のコピーを最低限に抑えるなど事務面のコストを徹底的に削減しつつ、「重症心身障がいを抱えた子どもたちが安心して過ごせる環境をつくるには、マンツーマン以上の人員体制が必要」と、利用者あたりの人件費を介護業界標準の3倍以上かけるなど、これまでの常識にとらわれない運営体制を構築しました。充実したケアサービスが口コミで広まり利用者が増え、現在では60名以上の職員とともに、名古屋市内の5か所でサービスを展開しています。

momoレンジャーは子どもたちのお兄さん、お姉さん役

ふれ愛名古屋は、子どもたちの送り迎えのための車両を購入するためにmomoの融資を受けました。「おかげさまで親御さんの負担がぐっと軽減されました。それに加えて、momoレンジャーの存在がありがたかったですね。忙しくて手が回らなかった創業期にWEBサイトを作ってくれたり、施設に通いながら家庭菜園の手入れをしてくれたり。子どもたちのよいお兄さんお姉さん役になってくれました。そこでの縁がきっかけで、ふれ愛名古屋で働くことになったレンジャーもいます」。

子どもたちや家族への温かいケアを、持続可能なかたちで拡大しているふれ愛名古屋。その背景には、現状の課題を徹底的に研究し、理想とする社会像から逆算して日々の事業を組み立てるという鈴木さんの姿勢があります。「現在の児童福祉法では、高校を卒業してしまうとデイサービスの対象になりません。でも、子どもたちの人生はずっと続いていきます。いつか親御さんと離れても安心して生きていけるように、成人向けのデイサービスやグループホームをこれからつくっていきます」と、そのビジョンは明確です。

名古屋市に支援の仕組みをつくるなかで、同じ悩みを抱えた全国各地の家族から「ふれ愛名古屋の仕組みを地域につくりたい」と相談を受けることが増えました。こうした要望に応え、鈴木さんは2014年に全国重症心身障がい児デイサービス・ネットワークを設立。各地の当事者団体による施設設立や運営のサポートを進めています。全国どこにいても子どもたちや家族が一生安心して暮らしていける社会の実現に向けて、これからも挑戦は続きます。

数字で見るmomoレンジャー

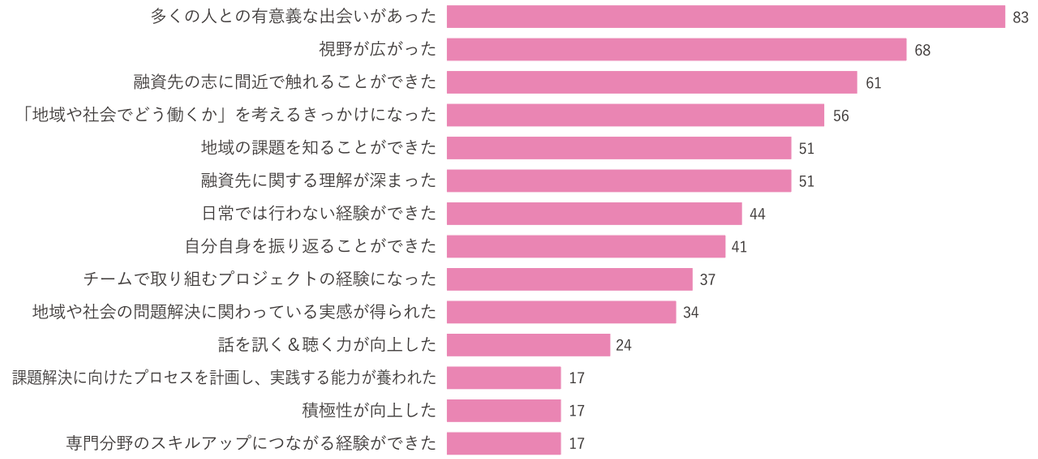
momoにおいて、出資者と融資先をつなぐ役割を担っているのが、20代～30代の若者を中心としたボランティアスタッフ「momoレンジャー」。常時10～20名のメンバーが、週末や就業後に融資先を訪問してWebサイトやニューズレターによる情報発信をしたり、融資完済時にイベントを開催したりと、幅広く活動しています。所属は農業、金融、コンサルティング、ベンチャーなどの民間企業をはじめ、官公庁、NPO、学生など多岐にわたり、なかにはNPOへの転職や起業するレンジャーも現れています。

momoレンジャーの活動から得たもの

アンケートの設問「momoレンジャーとしての活動が、あなたにどんな影響を与えましたか？」では、「多くの人との有意義な出会いがあった」「視野が広がった」「融資先の志に間近で触れることができた」との回答が目立ちました。

また、「地域や社会でどう働くかを考えるきっかけになった」「地域の課題を知ることができた」などの回答も多く、momoレンジャーとしての活動が、地域とのつながりを増やすきっかけになっているといえそうです。

momoレンジャーとしての活動が与えた影響（n=41、単位：%）

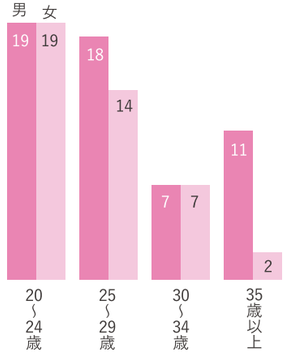


momoレンジャーってどんな人たち？

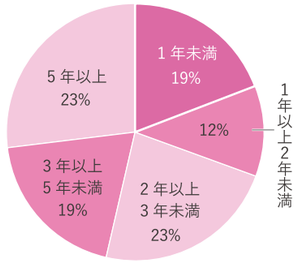
過去10年間に関わったレンジャーの総数は97名。性別と活動開始時点での年齢を見てみると、男女では若干男性が多いもののほぼ同数、年代では20代が多いことがわかります。

活動期間の長さについては、3年以上が約半数を占め、うち5年以上が3割弱と、長期間活動に関わる人たちが多いことがわかります。

momoレンジャーの年齢・性別構成（n=97、単位：人）



momoレンジャーとしての活動期間（n=26）



市野将行さん

株式会社ランダムネス　代表取締役

地元・名古屋で起業し、活躍する元momoレンジャー

バックパッカーとして世界80カ国を旅した「いっちゃん」こと、市野将行さん（38）。30歳で旅を終え地元名古屋に戻ったのち、「今後は若者たちの社会貢献と国際交流、多文化共生をテーマに仕事をしようと決めた」市野さんは、まずインターネットで「若者　地域ボランティア」と検索。そこでmomoを見つけ、融資先の活動や地元の若者を知るためにmomoレンジャーに参加しました。

抜群の行動力と前向きさでレンジャーの活動をリードしつつ、2009年にランダムネスを創業（2012年法人化）。翌年には若者向けの英会話スクール「ESOT　旅人の英会話」を立ち上げるなど、多くの出会いの場をつくりながら事業を拡大し、2012年からはmomoの一般融資もスタート。2015年6月には名古屋駅エリアで、地区初となる交流型ゲストハウス「グローカル名古屋　ホステル＆カフェバー」をオープンしました。名古屋に新たな交流拠点をつくり続ける市野さんの活躍に、これからも注目です。

元momoレンジャーのいっちゃんが経営する「グローカル名古屋ホステル&カフェバー」でお話をうかがいました。

理事 JEN × momoレンジャー まなみん

融資先の開拓や出資者への情報発信など、日々の運営をボランティアで支えるmomoレンジャーと理事。いったいどんな人たちで、どのような想いをもって活動に携わっているのでしょうか。数字からだけは伝わりにくい生の声をお伝えするため、現役momoレンジャーの「まなみん」と、理事「JEN」にお話を伺いました。

鈴木雄介（JEN）
1985年札幌市生まれ。転勤族の家庭に育ち、大学卒業後は大阪の地方銀行に就職。現在は名古屋市市民活動推進センターに勤務しつつ、momo理事として金融機関との連携を担当。

奥田 真巳（まなみん）
1986年名古屋市生まれ。レンジャー歴7年。学生時代にmomoレンジャーとなり、活動がきっかけで金融機関に就職。趣味は美術鑑賞と日本酒と各地の友達巡り。

momoに関わるようになったきっかけを教えていただけますか？

まなみん：大学3年の時、ゼミの飲み会でmomoの理事に出会ったのがきっかけです。話を聞いておもしろいなと思って、後日友人と一緒に代表の木村さんに会いに行ったんです。新しいお金の流れをつくりたい、という話がすごく説得力があって、いつの間にかボランティアとして関わっていました。

JEN：地方銀行で働いていたときに、NPOバンクの勉強会で木村さんに会ったのが始まりです。銀行での仕事は数字の桁が大きいし、社会勉強にはなるのですが、世の中に役に立っていると感じづらく。その点、momoのしくみはおもしろいなと思っていました。そこから数年経って木村さんに「これから地域の金融機関を巻き込んでいくんだけど、やってみない？」と誘われて、今しかないと思って、momoの事務局スタッフに転職しました。

momoレンジャーや事務局として、どんなお仕事をされてきましたか？

まなみん：momoレンジャーの主な役割は出資者と融資先をつなぐ情報発信ですが、他にもいろいろやりました。イベントにブース出展して出資やmomoレンジャーを募集したり、融資先に取材に行って紹介記事を書いたり。作文には自信があったんですが、新聞社に勤めるレンジャーの校閲によって木っ端微塵に（笑）。でも、とてもいい勉強になりました。momoの周りには、「自分もこうなりたい！」と思えるちょっと年上のロールモデルがたくさんいて、そういう先輩たちに会って話を聞くのは本当に楽しかったです。

JEN：僕の場合は、金融機関職員のプロボノ（スキルを活かしたボランティア）による企画運営や、関係者とのやりとり、ソーシャルメディアでの情報発信などが主な役割でした。まなみんの言うように、momoの仕事のおもしろさは地域課題に取り組む人たちに会って、その現場に入り込めることですね。小さな組織ですから、これをやればいいという仕事の型がなく大変なこともありますが、すごくやりがいのある仕事だと思います。

まなみん：momoレンジャーもいい意味でゆるくて、「これをやりなさい」みたいなものはないんです。みんなニックネームで呼び合って、上下関係もありません。職業も年齢もばらばらな人たちが集まって、みんなで何をすべきか自分たちで考えて、まずやってみる。そんなところがよさなんじゃないかな。

momoでの経験が、今につながっていると感じることはありますか？

JEN：今も本業でNPOの設立や運営の相談などを担当していますが、NPO経営の知識に加えて、まず相手の話をすべてしっかり聞くといったところに、momoから学んだことが活きています。

まなみん：私は大学卒業後にメガバンクに就職しましたが、momoレンジャーをやっていなかったら、今ごろ別の会社で働いていたかもしれません。お金の流れや経済に興味を持って、もっと知りたいと思えたのは、momoで出会った人たちの影響だと思います。

年に1回行われるmomo合宿。泊りがけで2日間、みっちり今後の活動について話します。

数字で見る出資者

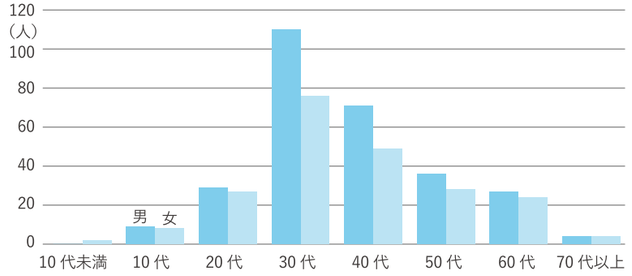
momoの活動は、趣旨に賛同するみなさんからの出資によって支えられています。配当はお金ではなく「社会へのインパクト」。最初はどれほどの人が賛同してくれるかな…と思っていましたが、2005年度に62名、484万円からスタートしたこのしくみは、10年間で531名（501名・30団体）、4,664万円へと着実に広がっています。

年齢・性別と居住地

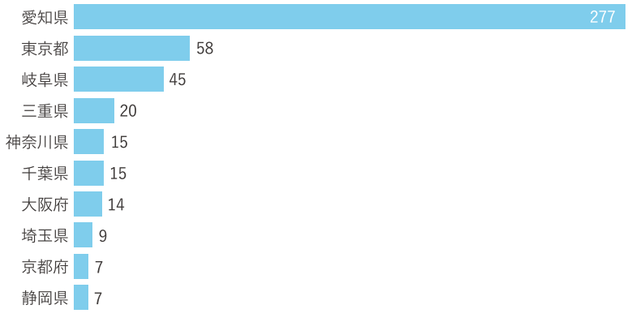
ここでは、出資者とはどんな人たちで、なぜ出資しているのかをお伝えします。まず、男女別の割合を見ると、男性57%、女性43%と、少しだけ男性が多いことがわかります。年代で見ると、男女ともに30代が最も多く、続いて40代、50代、そして60代は20代とほぼ同じくらい。若者の活動を大人がサポートする構図になっているようです。ちなみに最年少は2歳（3名！）、最高齢は90歳と、幅広い方からご協力をいただいています。

出資者のお住まいを見ると、愛知県が55%でトップ、続いて東京都の11%となっています。東海地方出身で首都圏在住の方や、「地縁はないけれど活動に共感して」という方も多く、29の都道府県から出資いただいています。一方でmomoの融資先の約半分は愛知県以外であることを考えると、岐阜県や三重県でもっとmomoの取り組みを伝えていくことも大切かもしれません。

出資者の年齢・性別構成（n=507、上位10県）



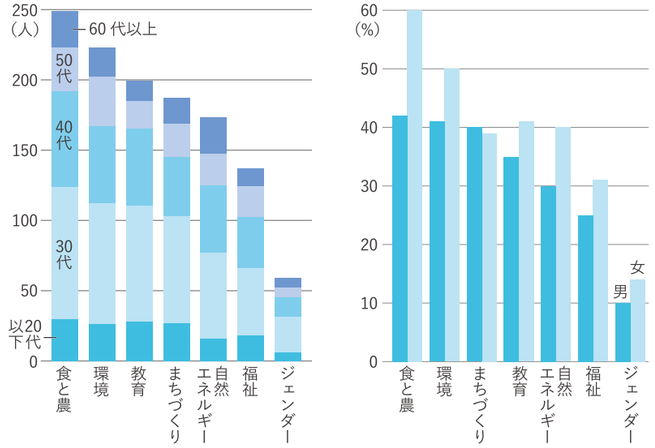
出資者の居住都道府県（n=507、上位10県、単位：人）



関心をもっている社会課題

「どんな社会課題に関心がありますか？」という質問の回答を表にまとめました。これによると、みなさん共通して関心が高いのは「食と農」、ついで「環境」「まちづくり」となっています。世代間で関心に差が見られるのは「まちづくり」。若いほど関心が高まっている傾向があります。一方で「環境」や「自然エネルギー」については、50代で関心が最も高くなっています。男女差はほとんどありませんが、「食と農」については女性の方が関心が高いようです。

出資者の関心分野（n=504、複数回答）



出資者の声

50代男性（東京都）

生まれ育った地域のために何かできないかと考え、出資しました。新しいお金の流れをつくろうという若者の取り組み、心強く思います。応援していますので、がんばってください。

30代女性（愛知県）

2児の母です。仕事と子育ての両立に追われる日々ですが、「こういう世の中にしたい！」という夢や情熱を私も持ち続けたいです。子どもたちが豊かに暮らせる未来のために出資します。

20代男性（岐阜県）

融資先のひとつであるこうじびら山の家を訪れてみました。そこで目にしたのは、momoに集まったお金が地域で循環している光景でした。こんな循環がもっと増えていってほしいです。

地域金融機関との連携

地域内“志金”循環モデル構想

momoでは東日本大震災以降、地域金融機関との連携を進め、信用金庫職員がボランティアでNPOに参画する「プロボノプロジェクト」の推進、地方公共団体や金融機関などとの「ソーシャルビジネスサポートあいち」の発足、地域金融機関によるNPO支援を促す『お金の地産地消白書2014』の発行など、NPOと地域金融機関のギャップを埋める取り組みを手掛けてきました。

momoの次の10年のチャレンジは、「地域内“志金”循環モデル構想」の実現です。「行政」「市民コミュニティ財団」「NPOバンク」「地域金融機関」によるNPOの発展段階に合わせた“志金”循環により、団塊の世代が75歳以上の後期高齢者になる2025年までに、愛知県に本店を置く15信用金庫の預金総額（約14.5兆円）のうち、地域外へと流出している約7.4兆円の1%（740億円）がNPOに循環している地域の実現を目指しています。

地域金融機関との連携（1）：ソーシャルビジネス（SB）サポートあいち

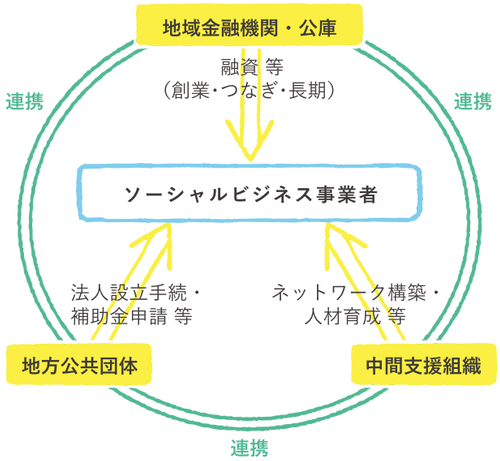
地域の課題をビジネスの手法で解決するSB事業者を、地方公共団体、地域金融機関、中間支援組織等で連携して支援するためのネットワークです。地域の支援機関（※）との共同で2014年10月23日に発足しました。

SB事業者支援に特化した形で、地方公共団体、地域金融機関、中間支援組織の三者がネットワークを立ち上げたのは全国初の事例となっています。

本ネットワークに参加する機関は、SB事業者からのさまざまな相談について、それぞれが持つ知見とノウハウを活かして支援するとともに、参加機関同士の紹介等を行い、ワンストップサービスを提供しています。

※参加支援機関一覧（2015年11月現在）
【地方公共団体】愛知県/公益財団法人あいち産業振興機構/名古屋市（市民活動推進センター）/公益財団法人名古屋産業振興公社/半田市（はんだまちづくりひろば）
【金融機関】株式会社愛知銀行/愛知県信用保証協会/愛知信用金庫/瀬戸信用金庫/知多信用金庫/中日信用金庫/東海労働金庫/東濃信用金庫/株式会社日本政策金融公庫
【中間支援組織・専門家】公益財団法人あいちコミュニティ財団/コミュニティ・ユース・バンクmomo/株式会社ビー・エス・サポート

ソーシャルビジネスサポートあいちのイメージ図



地域金融機関との連携（2）：NPOの社会的価値「見える化」プログラム

「ソーシャルビジネスサポートあいち」に参加する支援機関（2015年度は瀬戸信用金庫、知多信用金庫、東濃信用金庫、株式会社日本政策金融公庫、名古屋市、半田市の6機関）の職員が仕事で培ったスキルや経験を生かして、参加NPOを半年間応援するプログラムです。参加NPOの事業が地域や社会にもたらしている定性的な価値を、貨幣価値に換算して定量的に示す「インパクトマップ」を作成し、そのプロセスや結果からNPOへの提案をまとめます。

2015年度の参加NPOは、momoの融資先でもある「一般社団法人One Life」です。

http://blog.canpan.info/sbsa-mieruka/

定例ミーティングの様子

地域金融機関との連携（3）：東海ろうきん「NPO育成支援助成」

2015年度から東海労働金庫とmomoが協働で実施する、地域や社会にもたらす価値（＝成果）を重視した、本気で社会を変えたいNPO向けの助成プログラムです。地域のさまざまな支援機関が参画し、「社会を変える計画づくり」「事業計画づくり」「実行計画づくり」をサポートすることで、助成事業終了後には金融機関から融資が受けられるNPOを輩出することを目指しています。

2015年度は東海3県（愛知・岐阜・三重）で事業を行う12のNPO法人に助成しました。

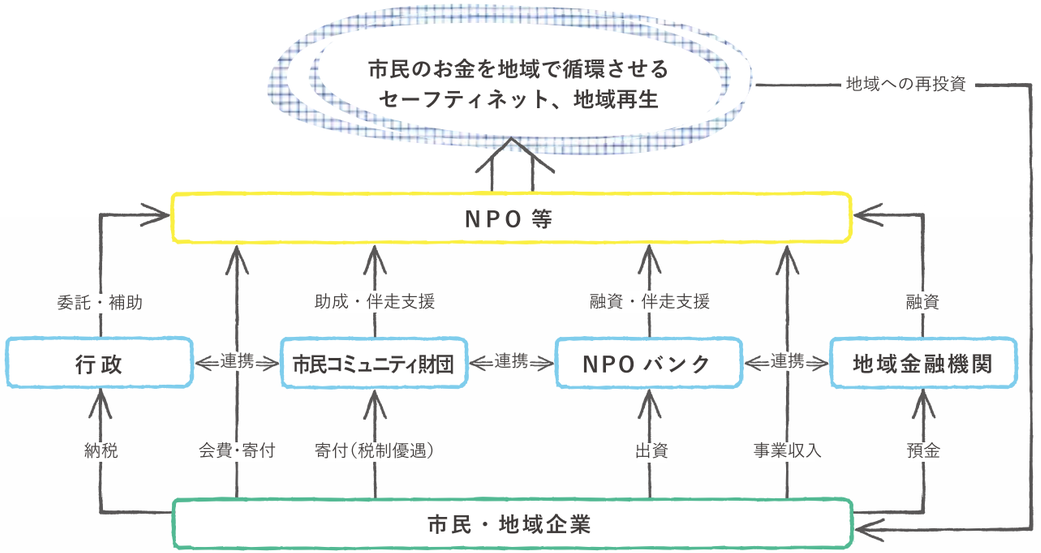
http://blog.canpan.info/rokin-ikusei-kifu/

助成金交付式の様子

次の５年、10年に向けて

創立10周年を迎えたmomoは次の10年、より多くの方と一緒にチャレンジするために、その第一歩として「2016年～2020年の5年間で地域や社会にどう具体的にアプローチするか？」を言語化し、共有できる具体的な設計図「Theory of Change 2020」を描きました。
21、22ページの通り、momoはこれからも、地域の課題解決に本気で挑む事業者を増やすために、出資を集め、融資を行い、若者の参画を促します。また、「わたしのお金が地元で生かされている」という実感を育むために、融資先への伴走支援を行います。さらには、地域のお金の流れを再デザインするために、地域金融機関等と連携することで、全国各地が参考にできる「地域内“志金”循環モデル構想」の実現を目指します。

● 地域内“志金”循環モデル構想



参考：「名古屋市市民活動促進基本方針」（2011年12月）/ 図 資金が地域で回る仕組みのイメージ（例：市民ファンドの場合）

「地域内“志金”循環モデル構想」の実現に向けた Theory of Change 2020（P21、22掲載）の解説

【言葉の定義】

・地域：そこに暮らす人たちが「ここは自分たちの地域である」と共有できるエリアのこと
・志金：「NPOを応援しよう！」という想いが込められた民間による資金（寄付や出資、融資などの社会的投資）のこと
・若者：東海3県（愛知・岐阜・三重）で暮らす20～30代を想定（年齢制限はない）
（地域の未来を担う若者たちが、その未来を先取りして解決に挑む融資先と出会い、お互いに学び合う機会をつくることで、事業や地域の持続性を高めていくことを目指して、団体名にも「ユース」が入れられている。）

【KPI（Key Performance Indicator/2025年の目標達成を判断するための評価指標）】

団塊の世代が75歳以上になる2025年までに、愛知県の15信用金庫の預金総額（約14.5兆円）のうち、地域外へと流出している約7.4兆円の1%（740億円）がNPOに循環する地域を実現している。

・NPOの資金借入先の84%以上が地域金融機関（地方銀行、信用金庫、信用組合、労働金庫）になっている
・すべての地域金融機関（地方銀行、信用金庫、信用組合）が地域密着型金融推進計画に「NPO支援」を記載している
・すべての都道府県で行政や市民コミュニティ財団、地域金融機関（地方銀行、信用金庫、信用組合、労働金庫）の連携によるNPO支援のプラットフォームが誕生している
・すべての地域金融機関（地方銀行、信用金庫、信用組合、労働金庫）がNPO向け融資制度を創設している
・50%以上の地域金融機関（地方銀行、信用金庫、信用組合、労働金庫）がNPOと連携して人材育成に取り組んでいる

【割合の意味】

エベレット・M・ロジャースが提唱した、イノベーションの普及に関する理論を参考に設定。

・2.5%：イノベーター（革新者）の普及
・16%：アーリーアダプター（初期採用者）まで普及。普及率16%の論理（キャズムを超えるポイント）
・50%：アーリーマジョリティ（前期追随者）まで普及。
・84%：レイトマジョリティ（後期追随者）まで普及。一般化している状態

次の５年、10年に向けて

●「地域内“志金”循環モデル構想」の実現に向けたTheory of Change 2020　※2020年までの問題解決の仮説

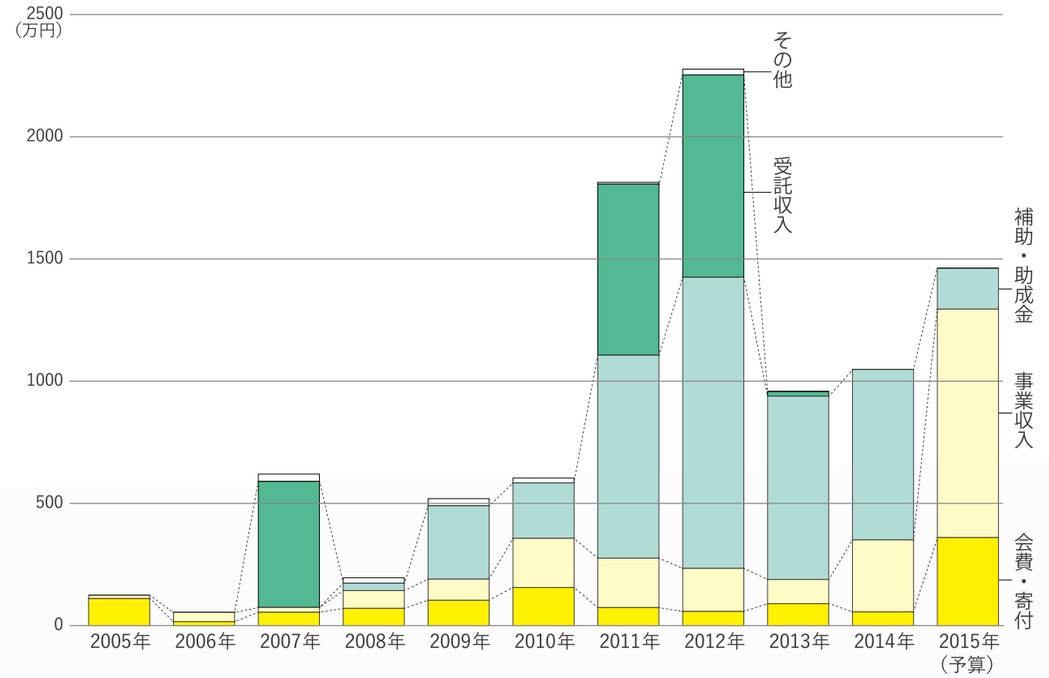
★momoが主体となって実現すること　☆他団体と協働で実現すること

目標（Goal）	目的（Objectives）	事業（Activities）		結果（Output）	成果（Outcome）	影響（Impact）
行政や市民コミュニティ財団、地域金融機関等と連携し、全国各地が参考にできる「地域内“志金”循環モデル構想」を実現する	1．地域の課題解決に本気で挑む事業者を増やす	出資を集め、融資を行い、若者の参加を促す 1．1　バンク	（1）出資金の募集【★】	●正会員数：1,000人（84%以上が愛知・岐阜・三重県） ●出資総額：5,000万円	16%以上の正会員が「momo たね基金」に参加している	momo をモデルとした NPO バンクや地域金融機関との連携が「岐阜県」と「三重県」にも誕生している。
			（2）正会員への融資【★】	●融資件数：100件 ●融資総額：2億5,000万円	16%以上の momo 融資先が地域金融機関から融資を受けている	
		出資を集め、融資を行い、若者の参加を促す 1．2　ユース	（1）若者のボランティアスタッフ「momo レンジャー」の募集・育成【★】	●momoレンジャー数：200名 ●momoレンジャー更新率：84%以上	84%以上の momo 融資申込先が「momo レンジャー」を魅力を感じ、申し込んでいる	
			（2）東海地域の若手起業家の募集・育成：東海若手起業塾【☆】	●支援件数：50件 ●東海地域でメンターを構成	東海地域の支援機関によるプラットフォームが誕生している	
	2．「わたしのお金が地元で生かされている」という実感を育む	融資先への伴走支援を行う 2．1　情報発信	（1）リアル&バーチャル：『momo 通信』『momo レポート』の発行、ブログや SNS 等の更新等【★】	●情報会員数：500人（正会員数の50%）	他のさまざまなメディアへの波及効果を促進している	市民がＮＰＯや“志金”を好意的に理解し、「信頼できる組織」として企業や行政を超えるNPOが現れている
			（2）メディア：新聞、テレビ、雑誌等【☆】	●メディア掲載数：30件以上/年		
		融資先への伴走支援を行う 2．2　場づくり	（1）融資先との交流企画：お披露目会、完済祝いパーティ等【☆】	●正会員の参加率：16%以上/年	支援者数の増加や自主財源率の向上など、融資先の組織基盤が強化されている	
			（2）正会員との交流企画：総会、忘・新年会、花見等【★】	●定時総会における正会員の議決権行使率：84%以上		
			（3）momo レンジャー等による発案企画：融資先訪問ツアー等【☆】	●貸し倒れなし		
	3．地域のお金の流れを再デザインする	地域金融機関等と連携する	（1）融資前：東海ろうきん「NPO 育成支援助成」の実施【☆】	●助成件数：60件 ●助成総額：6,000万円	50%以上の助成先が地域金融機関から融資を受けている	NPOの資金借入先の50%以上が地域金融機関（地方銀行、信用金庫、信用組合、労働金庫）になっている
			（2）融資後：「融資先の社会的価値『見える化』プログラム」の実施【☆】	●融資先数：10件 ●「SBサポートあいち」の全支援機関が参画	84%以上の地域金融機関が地域密着型金融推進計画に「NPO 支援」を記載している	
			（3）「『お金の地産地消白書 2014』を読む会」等の開催【☆】	●配布・販売数：4,000冊 ●47都道府県で開催（50%以上の地域金融機関が参加）	84%以上の都道府県で NPO 支援のプラットフォームが誕生している	

財務の変化

この 10 年間で事業規模は約 10 倍に

補助・助成金、受託収入の割合が多かった2011～2012年を経て、事業収入の増加に取り組んだ結果、2015年には事業収入の割合が6割を超えるようになりました。



役員・顧問・スタッフ（2015 年度）

理事　木村真樹（代表理事）/ 鈴木雄介（副代表理事）/ 長谷川友紀（副代表理事）/ 石川孔明 / 奥村健太 / 小松誠 / 杉山弘城 / 戸崎泰史
監事　伊藤真弘 / 伊勢戸由紀 / 荻江大輔
顧問　五十川裕記 / 加藤慶文 / 川北輝 / 酒井隆信 / 佐野真隆 / 原美智子
スタッフ　小池達也 / 斉藤順子

私たちはコミュニティ・ユース・バンクmomoを応援しています！

健全・安心・貢献
東海ろうきん

NPO支援活動

ひとづくり、まちづくり、くらしづくりなど、今、様々な分野でこれからの社会づくりの新しい担い手として、市民活動やボランティア活動を推進していく非営利の市民団体：NPO（Non-profit Organization）への期待が高まっています。東海労働金庫はこうした NPO の活動を支援するための活動をしています。

- ☐ **NPO 寄付システム**：東海ろうきんのお客さまが、寄付を通じて毎月 NPO をサポートできるシステムを提供しています。74 の NPO がエントリー。
- ☐ **NPO 育成支援助成制度**：助成金と運営のサポートをセットで提供し、活動を軌道に乗せるための支援を行っています。
- ☐ **事業サポートローン**：活動資金などを NPO 向けにご融資しています。
- ☐ **社会貢献商品制度**：東海ろうきんのお客さまに対象商品をご契約いただいた実績に応じ市民公益活動団体に寄付を行っています。

お近くの東海労働金庫本支店窓口に、お気軽にご相談ください。

お問い合わせ
東海ろうきん お客さまセンター
フリーダイヤル 0120-226616
平日 9：00 ～ 17：00（土日・祝日を除く）

ホームページでも詳しい内容をご覧いただけます。
東海ろうきん　検索

2015年11月13日作成

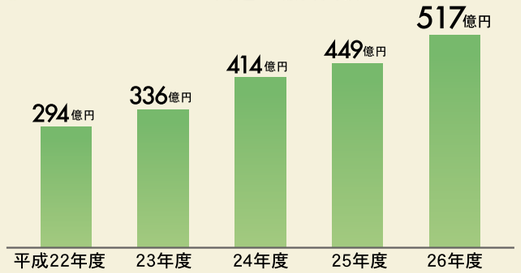
日本政策金融公庫
国民生活事業には
ソーシャルビジネスを応援する融資制度があります!!

ソーシャルビジネス支援資金 POINT 1 ソーシャルビジネスのための融資制度です！

ソーシャルビジネス支援資金 POINT 2 担保・保証人を不要にすることもできます！

ソーシャルビジネス支援資金 POINT 3 創業企業の利率を低減します！

●ソーシャルビジネス関連の融資実績



（注）「①NPO法人」「②介護・福祉事業者」「③社会的課題の解決を目的とする事業者（①②以外）」への融資実績の合計。ただし、③は26年度から集計を開始。

《詳しくは下記へお問い合わせ下さい》

行こうよ！ 公庫

0120-154-505

※音声ガイダンスが流れた後「1」を押して下さい。

日本公庫 検索

JFC 日本政策金融公庫
国民生活事業

株式会社ミライプロジェクト

MIRAIPROJECT

新瑞橋（南区平子1丁目）に
２０１６年夏オープン予定！

大規模通所介護施設（デイサービス）
&
フィットネススタジオ

ご利用者様も
地域の方々も
スタッフも
誰もが
健康な毎日を
送ることができる
プロジェクトを
目指しています。

プロジェクトに
一緒に取り組む
仲間を
募集しています。

オープニングスタッフ大募集！！

施設スタッフ・スタジオインストラクター・ボランティアさん

http://www.miraiproject.co.jp/

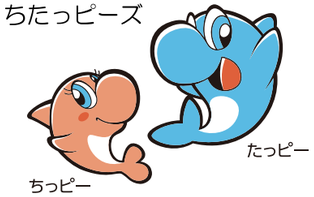
あなたの街の頼れる信用金庫

瀬戸信用金庫

瀬戸市東横山町 119 番地の 1
〈電話〉0561-82-3141〈ホームページ〉http://www.setoshin.co.jp

ふれあい地元とともに

ちたしん
マスコットキャラクター
ちたっピーズ



知多信用金庫

半田市星崎町３丁目３９番地の１８
TEL　０５６９-２２-３５１１
http://www.chitashin.co.jp

とうしんは
地域の NPO を応援します

設立・運営相談
ネットワークづくり
行政や企業との協働
プロボノ活動

とうしん地域活力研究所
TEL：0572-28-3021
FAX：0572-28-3023

地元と共にあり、共に栄える
東濃信用金庫

brother
at your side

ブラザー工業株式会社
http://www.brother.co.jp

ちゅうしん

いつも一緒に、
あなたのちゅうしんです。

中日信用金庫

〒462-0844 名古屋市北区清水二丁目９番５号

DENSO

東海若手起業塾

http://www.tokai-entre.jp/

東海若手起業塾

Tokai Young Entrepreneur Seminar/Supported by Brother Industries Ltd.

東海若手起業塾は、「地域の課題解決や地域資源の有効活用を通じて、東海地域を活性化したい！」と考えている若手起業家を対象に、ビジネスモデルや事業戦略の質を高め、事業を成長軌道に乗せていくための支援を行うプログラムです。2008年より開始した本プログラムは、7年間を通してこれまでに31名の起業家を輩出しました。起業家の多くは支援終了後、支援者数や雇用者数、収入を著しく増加させ、また地域や社会に真に必要とされる「At your side.」な起業家へと成長しています。

第8期を迎えた2015年度は、4名の起業家を支援しています。実行委員会の持つネットワークや支援ノウハウを最大限に活用し、若手起業家と一緒に東海地域のさらなる発展を目指します。

【東海若手起業塾実行委員会】公益財団法人あいちコミュニティ財団/NPO法人アスクネット/一般社団法人アスバシ教育基金/NPO法人ETIC./NPO法人起業支援ネット/コミュニティ・ユース・バンクmomo（事務局）/NPO法人G-net/東海若手起業塾OB・OG会
【協賛】ブラザー工業株式会社

お客様に安心を
提供しつづける
総合事務所でありたい

名古屋市丸の内の税務・会計・社会保険業務の総合事務所

税理士法人
丸の内中央総合事務所

〒460-0002 名古屋市中区丸の内三丁目 19 番 1 号
ライオンビル 7 階 〈電話〉052-950-2111
〈ホームページ〉http://marunouchi-chuou.jp/

未来に地球を
まるごととっておこう！

ユニーはお買い物を通じて、
環境にやさしい生活を
お客様と一緒に進めていきます。

ユニー株式会社

熱と暮らしを創造する

Rinnai

リンナイ株式会社
〒454-0802 名古屋市中川区福住町2番26号
☎052-361-8211（代表）
http://www.rinnai.co.jp/

http://www.eco-branch.jp
Eco-Branch
株式会社 鶴田商会 Eco-Branch
〒452-0823 名古屋市西区あし原町10番
☎052-503-1002

NPO評価研究所
NPO Evaluation Research Institute

にんじんCLUB

応援メッセージ

momo創立10周年に合わせて、momoの活動に共感いただいている
竹下景子さん、小林武史さん、伊勢谷友介さんからも応援メッセージをいただきました。

竹下景子さん

女優

momo創立10周年おめでとうございます。この春、日経ソーシャルイニシアチブ大賞の表彰式で地域に根ざした果敢な活動を知り感銘を受けました。見据えているのは新たなコミュニティー。NPOバンクが人を育て街をつくる。これぞ幸せへの経済学でしょう。これからの10年にむけて、さらなるご活躍を期待しています。

小林武史さん

ap bank　代表理事

10周年おめでとうございます。ap bankは東北の復興支援が多くなっていますが、木村さんが市民のバンクをずっと続けてこられてきたこと、とてもすばらしいと思います。これからも世の中を豊かにする活動への支援を続けていってください。

伊勢谷友介さん

俳優、映画監督、リバースプロジェクト　代表

未来の人間を取り巻く環境は、いつも現在の延長上にある。今を生きる私達の生き方が、未来を創る。社会の血液の様なお金。使い方が未来を大きく変えるのだ。「志」と辞書で調べると、「他者の為に好意や、感謝の意味を込めて送る金品」ともなっています。私達が買い物をするとき、そして未来へ投資をするとき、「志」を込めて使うことが、お金を使う人の責任であるはずです。地域銀行の預金のほとんどが、東京都への投資が多くなり、「お金でお金を得る為の投資」になってしまっています。本当に地域が自立し、全体のする為には、momoの様な非営利の金融機関は社会企業を助け、地方創生の力になり、今最も大切な「志の投資」を促す力そのものです。